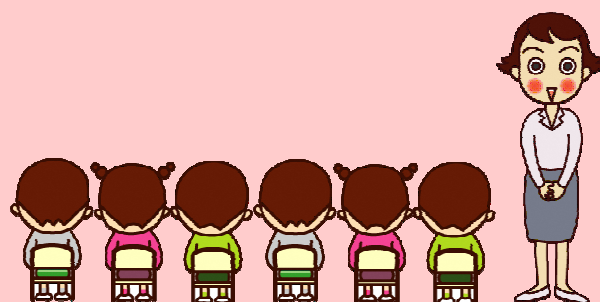
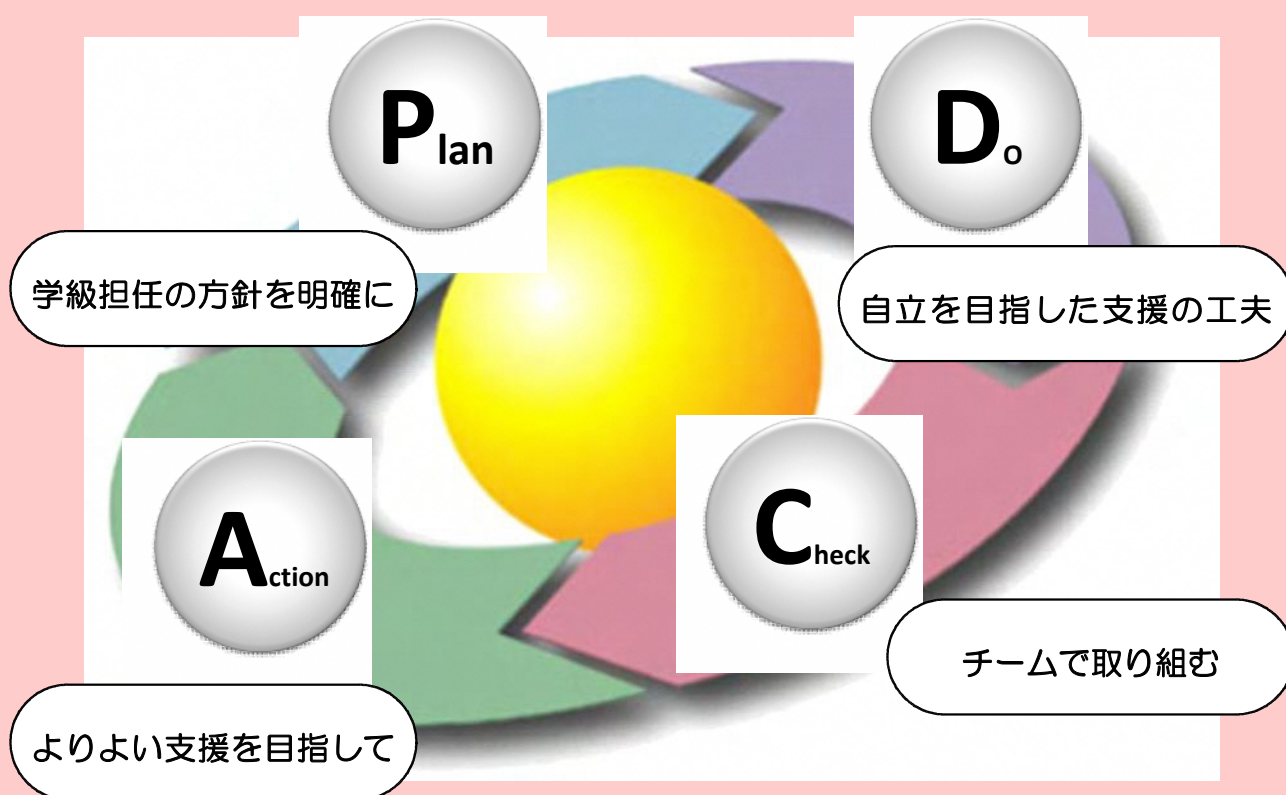


担任と支援員の

PDCA ハンドブック

— 学級担任と特別支援教育支援員のための応援サポートブック ダイジェスト版 —



秋田県総合教育センター

支援のための基本方針と情報

特別な支援を要する児童生徒の支援について責任を負っているのはあくまでも学級担任です。まずは学級担任が基本的な方針を示すことが大切です。学級担任は特別な支援を要する児童生徒のことを含めて学級経営の方針を立てる必要があります。



こんな学級にしようと考えています!
AちゃんとBさんには、とくに〇〇の
ような支援をお願いします。



[事前に把握すべき学校の支援体制に関する情報]

- ☐ 校内委員会の活動(年間計画, 内容, 開催時期, 役割分担)
- ☐ 支援を要する児童生徒への校内委員会の関わり方(教育的判断・内容, 評価)
- ☐ コーディネーターの役割(コーディネートの内容)
- ☐ 「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の立案, 実践, 評価等の計画
- ☐ 支援を要する児童生徒が関わっている医療・福祉機関等の情報



[支援員に伝えるべき学級に関する情報]

- ☐ 学級の実態(学級の雰囲気, 個々の児童生徒の実態, 興味・関心, 交友関係, 家庭環境)
- ☐ 学級目標(集団づくり, 環境, 健康・安全, 家庭との連携)
- ☐ 学級事務(指導記録)
- ☐ 教育課程(時間割 等)



[支援員に伝えるべき支援を要する児童生徒に関する情報]

- ☐ これまでの情報(引き継ぎ資料)
- ☐ 実態(学習の状況, 健康, 体力, 興味・関心, 得意なこと, 障害の特性)
- ☐ 関わり方(登下校, 学習の時間, 休み時間, 給食 等での基本的な接し方)
- ☐ 配慮すべき事項や保護者に関する情報
- ☐ 周りの児童生徒に関する情報
- ☐ 支援の方針に基づく具体的な支援の内容・方法・時間帯 等

支援員の役割と支援の内容

支援員としての役割やその内容は、児童生徒の特徴、場面や状況によって異なります。どんな場面でどのような内容の支援を行うか、学級担任や教科担任、コーディネーターと相談、確認をしましょう。



支援の最終目的は、本人の「自立」です。支援がなくても学校生活ができるようになるために、段階的に支援内容を変更したり、減らしていったりすることが重要です。



①基本的な生活習慣確立のための日常生活上の介助

- ・食事の介助、身支度の手伝い
- ・衣服の着脱の介助
- ・排泄の介助、失敗の際の後始末 等



②発達障害の児童生徒に対する学習支援

- ・教室を飛び出して行く児童生徒の安全確保
- ・読み取り困難な児童生徒への黒板の読み上げ
- ・書くことの困難な児童生徒への代筆
- ・聞くことの困難な児童生徒への注意喚起

③学習活動、教室間移動等における介助

- ・車いすの児童生徒の移動支援
- ・車いすの乗り降りの介助
- ・教員の指導補助として、制作、調理、自由遊びなどの介助

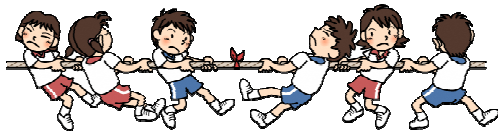


④児童生徒の健康・安全確保関係

- ・視覚障害のある児童生徒の体育や、家庭科等の実技介助
- ・てんかん発作が頻繁に起こるような児童生徒の見守り
- ・他者への攻撃や自傷等の危険な行動の防止への配慮

⑤運動会、学習発表会、修学旅行等の学校行事における介助

- ・視覚障害のある児童生徒への長距離走での併走や、学習発表会で舞台の袖に待機し安全確保のために見守ったりする支援
- ・修学旅行や宿泊学習の際、移動や乗り物の乗降介助



⑥周囲の児童生徒の障害理解促進

- ・担任と協力しながら、支援を必要とする児童生徒への接し方を、周りの児童生徒へ伝える。
- ・適切な接し方をしている周りの児童生徒を称賛する。
- ・得意なことや苦手なこと、理解しにくい行動をとってしまう理由などを周囲の児童生徒が理解しやすいように伝えたり、自然な関わり方について行動で示したりする。



授業における担任との連携の例

- ☐ 担任の全体への指示や説明が終わってから支援する。
- ☐ 特別支援教育支援員を呼ぶ(求める)サインを決めておく。
- ☐ よい行動が見られたら、すぐに褒めたり認めたりする。
- ☐ 事前に担任の動きや内容によってどのように動くか決めておく。





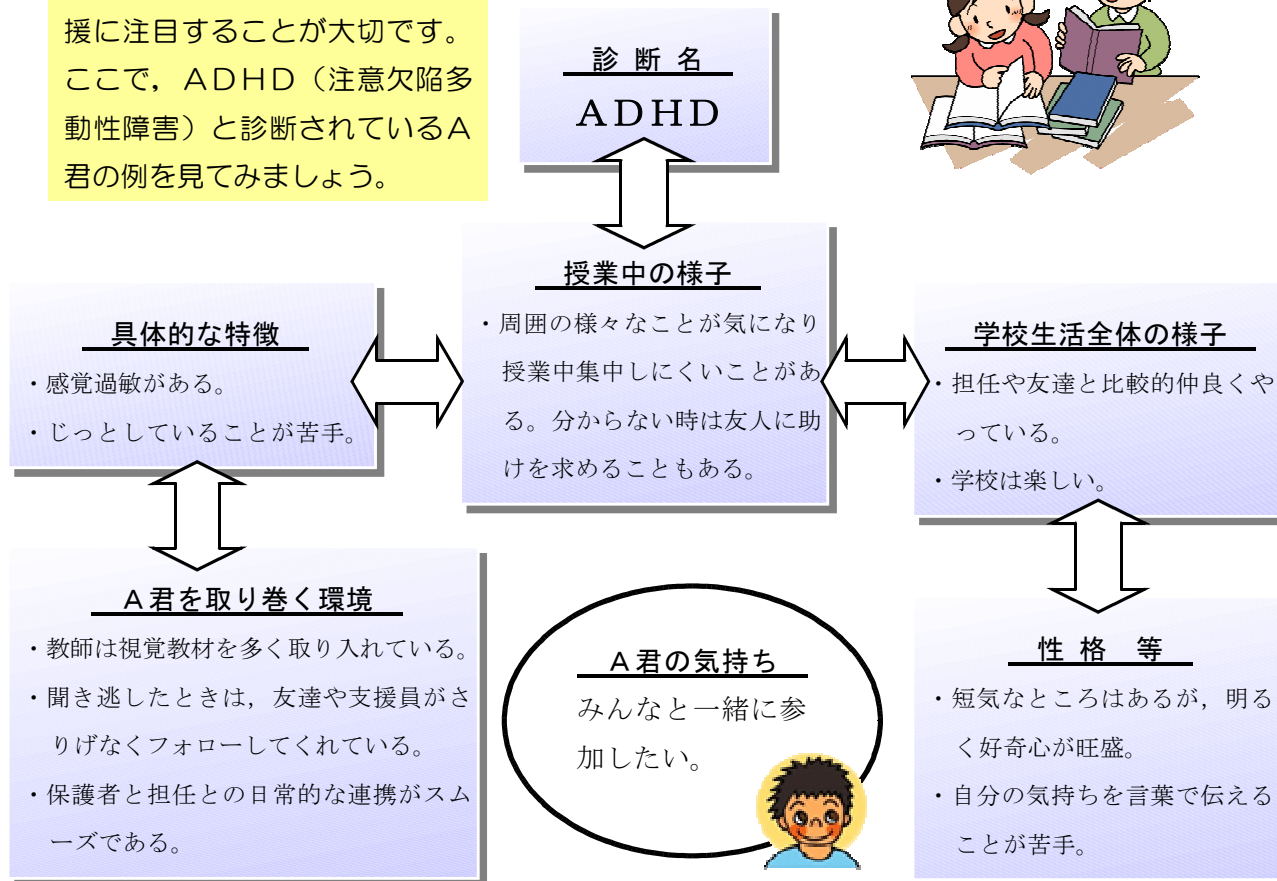
自立を目指した支援の工夫

支援の基本的な姿勢

支援にあたって大切なのは「支援する－される」といった関係ではなく、児童生徒が主体的に生き生きと活動し生活していけるようにすることです。児童生徒との共感や信頼関係の土台の上に、いずれ支援がなくなってもいいように自らの意志で成長し自立できるように接することが大切です。



支援にあたる際には、児童生徒の「障害への対応」という視点だけでなく、環境も含めた支援に注目することが大切です。ここで、ADHD（注意欠陥多動性障害）と診断されているA君の例を見てみましょう。



具体的な支援の例

- A君の集中できる時間を把握し、集中できなくなってきたら身体を動かす活動を取り入れる。
- A君への指示は具体的な言葉でシンプルに話すようにする。さらに言葉だけではなくカードや写真で示すなど視覚的な支援を取り入れる。
- 活動や予定については、A君が見通しをもって取り組めるように伝える。

特別な支援を必要とする児童生徒の中には情報を効率よく取り入れることや、自分の気持ちを表現することが苦手な子どもがいます。次のような工夫を意識することにより学級全体で分かりやすくなる児童生徒が増えます。



○前方の壁や黒板に掲示するものは最小限にしています。

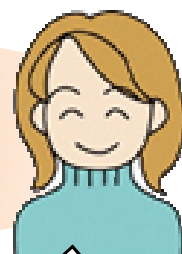
○重要な情報に注意が向きやすいように、展示物や物の配置を整理したり、必要がないときには、カーテンで隠したりしています。



○自分の気持ちを伝えるのが苦手な子どももいます。イラストや文字カードを用意して気持ちを表現する手助けとして活用しています。



「分かる」「できる」を目指した指導

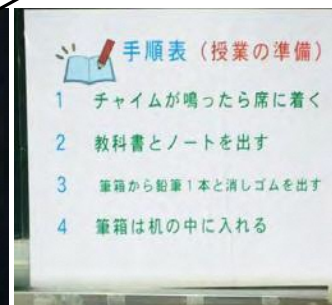
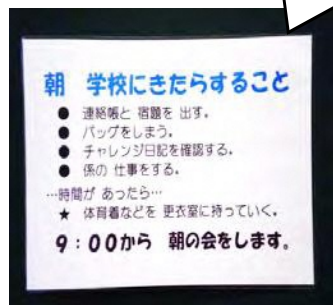
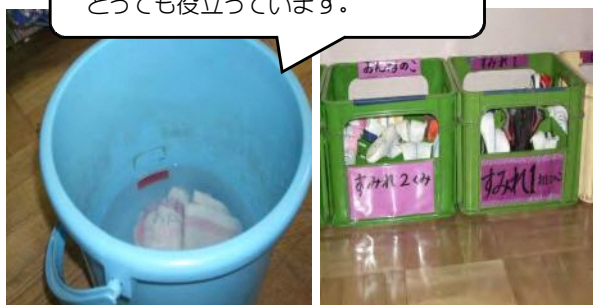


○担任の先生と相談しながら、掃除のバケツに水の量の目印を付けたり、置き場所が分かりやすいような表示の工夫をしたりしています。

○いろいろな工夫は、どの児童生徒にとっても役立っています。

○学習や生活場面で、「どこで」「何を」「どこまで」「どれくらいの間」「どのように行う」ということを具体的に簡潔に伝えるようにしています。

○やるべきことやその手順をはっきり示す手順表を活用しています。



支援は、学級担任、教科担任、支援員、コーディネーター、教頭、校長などが、「チーム」になって共通理解をしながら進めることが大切です。支援の記録や話し合いの方法を工夫しましょう。



毎日の記録を活用しよう

○日々の記録を工夫して活用しましょう。児童生徒の問題行動に注意や意識が向くことが多いのですが、「うまくいった支援」も記入しておくとな具体的対応へつながるきっかけとなります。

毎日の記録の活用例

Aさんの活動記録 <記入例>				○うまくいった支援
月 日	校時	教科等	活動の様子	支援 等
5 / 15 (木)	4	算数	・計算プリントの途中で教室を飛び出す声かけでもどる。	○「1番だけやろうね。」と本人とやる部分を確認したら、比較的スムーズにもどった。



「支援会議」で共通理解をしましょう

○学校では「児童生徒を語る会」等の名称で情報交換会が行われるようになりました。しかし、今後の方針や具体的な支援内容、役割分担まで話し合えるように必要に応じて各関係機関とも連携して共通理解して進めることが大切です。

支援会議の例

Aさんの支援会議	
○全体構成 I 授業参観 II 保護者との情報交換 III 支援会議	場 所 ○○小学校 日 時 ○○月○○日 (○) 支援者 学級担任、コーディネーター 保護者、教育センター
○次 第 1 個別の教育支援計画・指導計画を基にした共通理解 【検査結果、最近の様子(学校・家庭)等】 2 今後の支援に向けて(学校、家庭、教育センター) 【「個別の教育支援計画」の評価と見直し、「個別の指導計画」の短期目標の評価と見直し 等】 3 「個別の指導計画」の短期目標達成に向けた手立てと役割分担の確認 4 その他	

Action よりよい支援を目指して

「個別の指導計画」の目標を見直しましょう

「個別の指導計画」の目標や手立てを見直し、児童生徒の指導や支援に生かしましょう。具体目標を2～3か月で達成できるものにしたり、各教科ごとに題材や単元で予想される対応を記入したりすることで、担任・教科担任・支援員の具体的な対応が見えてきます。



「個別の指導計画」の活用例

目指す方向性 (長期・短期目標)		・進路 ・友達関係	・学校生活 ・家庭生活		
教科等	具体目標	内 容 ・ 方 法		支援者	評 価
英語	・[主語＋動詞]の基本的な文構造に慣れ、話したり書いたりすることができる。 ・	・覚える部分、ノートに書く部分を明確にし、具体的に伝える。 ・みんなの前で話すのをためらう場合には、小グループの活動で話すよう促す。		担任	目標に対する評価を記入する際は「10問中8問は支援がなくても書くことができた」「小グループでは話すことができた」などのように、達成度も合わせて具体的に記
客観的に評価ができるように、できるだけ具体的な目標を設定する。		教科ごとの具体的な支援や対応については、担任、教科担任、支援員で確認する。			
行事	[教科等ごとの対応]				
・学級活動	係活動は前もって伝えるように配慮する。事前に、どこまで(時間・量等)、何を行うか、相談することで最後まで取り組めるようにする。				
・国語	本生徒の解ける課題のプリントを用意し、イライラしてきたら別プリントを少人数学習室、図書館で学習するよう促す。家庭と連携し宿題の内容や量に配慮する。				
・理科	教師の近くに座るように配慮する。グループで実験する時は、仲のよい〇〇さんと一緒に。				
・英語	不安傾向が強いので、発表するときは事前に打合せをする(急に指名しない)。				
・行事	保護者を通じて事前に見通しがもてるように説明しておく。イライラしたときの対応を事前に決めておく。				

問題行動への具体的な支援の例

- 授業に集中できなくなり教室を飛び出したら支援員が追いかけてきてくれた。
→飛び出す前に「ここまでやったら終わり」と本人と確認しておく。どうしても外に出たい場合は「〇〇まで行ったら戻る」とルールを決めておく。
- わざと給食をこぼしたらみんなの注目を集めることができた。
→騒がず、しかし対応はきっぱりと。興奮している場合は落ち着くまで少し待つ。落ち着いてから静かに一緒に片付ける。



一人一人の「困った」に寄り添った支援をしましょう

【聞く】

- 話すときに指示代名詞を使わず具体的に話す
- 見通しをもたせるために最初に要点を話す
- 黒板やカードに指示内容を書く
- 注目させてから話す
- 語尾まで短く、はっきり、ゆっくり話す
- 理解したか個別に聞いて確認する
- 色、絵、マークを使って分かりやすく伝える
- メモを取る習慣を身に付けさせる

【話す】

- 話したいことを適切な言葉で補う（表現する）
- 話しやすいようにいくつかの選択肢を用意する
- 話すことを書いて整理する習慣を身に付けさせる
- 話したいことをよく聞き整理し確認する
- 話しやすいように実物、写真、絵を用意する
- 5W1Hの疑問詞カードを用意する

【読む】

- スリットをあけた厚紙や定規を用意する
- 要点、キーワードに印を付けて提示する
- 漢字にふりがなを付ける
- 文や段落を絵、写真、図等を加えて示す
- 単語、文節毎に横線を入れ、分かち書きする
- 事前に読むところを伝え家庭学習で補う

【書く】

- マス目、罫線の幅、解答欄を拡大する
- 漢字の構成要素（へん等）を色分けして示す
- 板書の書き方やチョークの色のルールを決める
- 作文等で写真や絵等の手がかりを手元に置く
- 板書内容をプリントにし手元に置く
- 何を書くか事前に伝え家庭学習で補う
- 作文等で書くパターンを示したシートを使う
- 休み時間にも書ける等、書く時間を長くする

【計算する・推論する】

- 視覚的な手がかり（絵カード等）や具体物を使う
- 形や位置を言葉で説明を加える
- 文章題を読み上げたり絵や図で示したりする
- 大きめのマス目のあるノートや用紙を用意する
- 問題（課題）の量を調整する
- 文章題の要点やキーワードに印を付ける

【不注意傾向】

- 必要な物は事前に準備する習慣を身に付けさせる
- 注意を向けさせてから指示をする
- 手順、約束等のリストを作成し手元に置く
- 机上には必要なものだけを置くようにさせる
- 指示を理解したか個別に確認する
- 持ち物カードやチェックリストを用意する

【行動・情緒面】

- 望ましい行動を取ったときにすぐ褒める
- がんばりカード等で目に見える評価をする
- 混乱したときの対応を本人と決めておく
- 注目を引くための行動は無視をする
- 予定を視覚的に示す（予定変更は早めに伝える）
- 褒めるときは他の児童にも紹介する
- 叱るときは個別に行う
- 守るべきルール約束を本人と決めておく
- グループのメンバーを決めるときに配慮する
- 混乱を起こす過敏さ（音等の刺激）に配慮する

【環境整備等】

- 座席の位置に配慮する（前列、2列目、後等）
- 黒板、掲示物等にカーテン等で刺激を調節する
- 学習終了時の確認・報告習慣を身に付けさせる
- 棚や机の中を構造化し、整理しやすくする
- 問題や宿題の量や出し方を調節する
- T T、少人数指導を活用した授業で配慮する
- 気持ちを落ち着ける場所を用意する